

■ベルギー建築について

- ・改修プロジェクトが多く、オランダ建築のような派手さやイギリス、ドイツ建築のようなハイテクな雰囲気はあまりないが洗練された空間を好む傾向がある
- ・コストを抑えながらも土地や歴史のリサーチを重視する建築家が多い



■建物コンセプト

- ・もともとの工場の持っている雰囲気を継承しながらも新しい要素（素材、形態）を挿入することでニュートラルな表情を持たせる



- ・既存の工場が持っているスパンからモジュールを決定し一貫したモジュールを挿入していくことでコストを抑えながら、工場という規格産業的な精神を共有していくを試みている

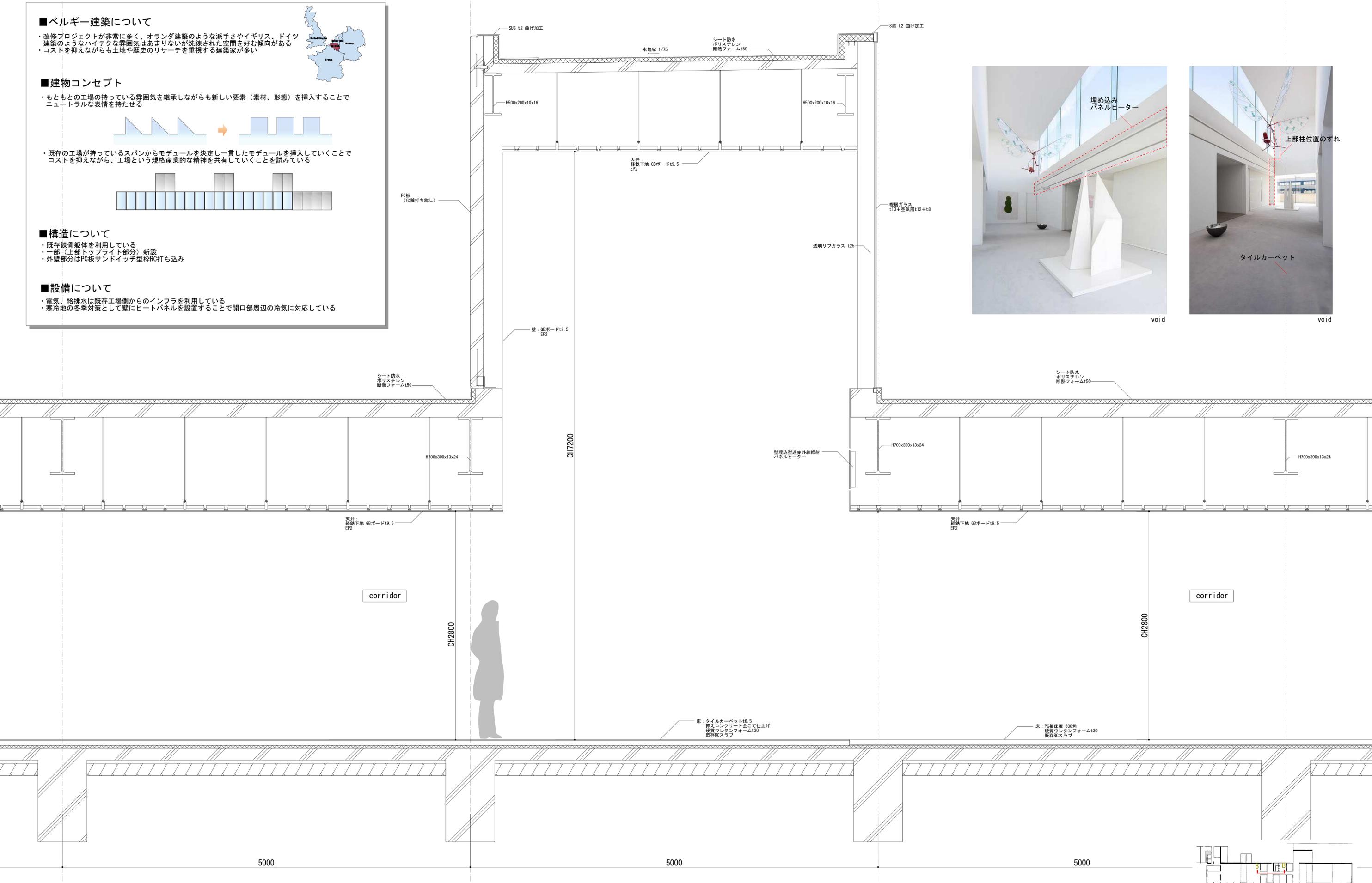


■構造について

- ・既存鉄骨躯体を利用している
- ・一部（上部トップライト部分）新設
- ・外壁部分はPC板サンドイッチ型枠RC打ち込み

■設備について

- ・電気、給排水は既存工場側からのインフラを利用している
- ・寒冷地の冬季対策として壁にヒートパネルを設置することで開口部周辺の冷気に対応している



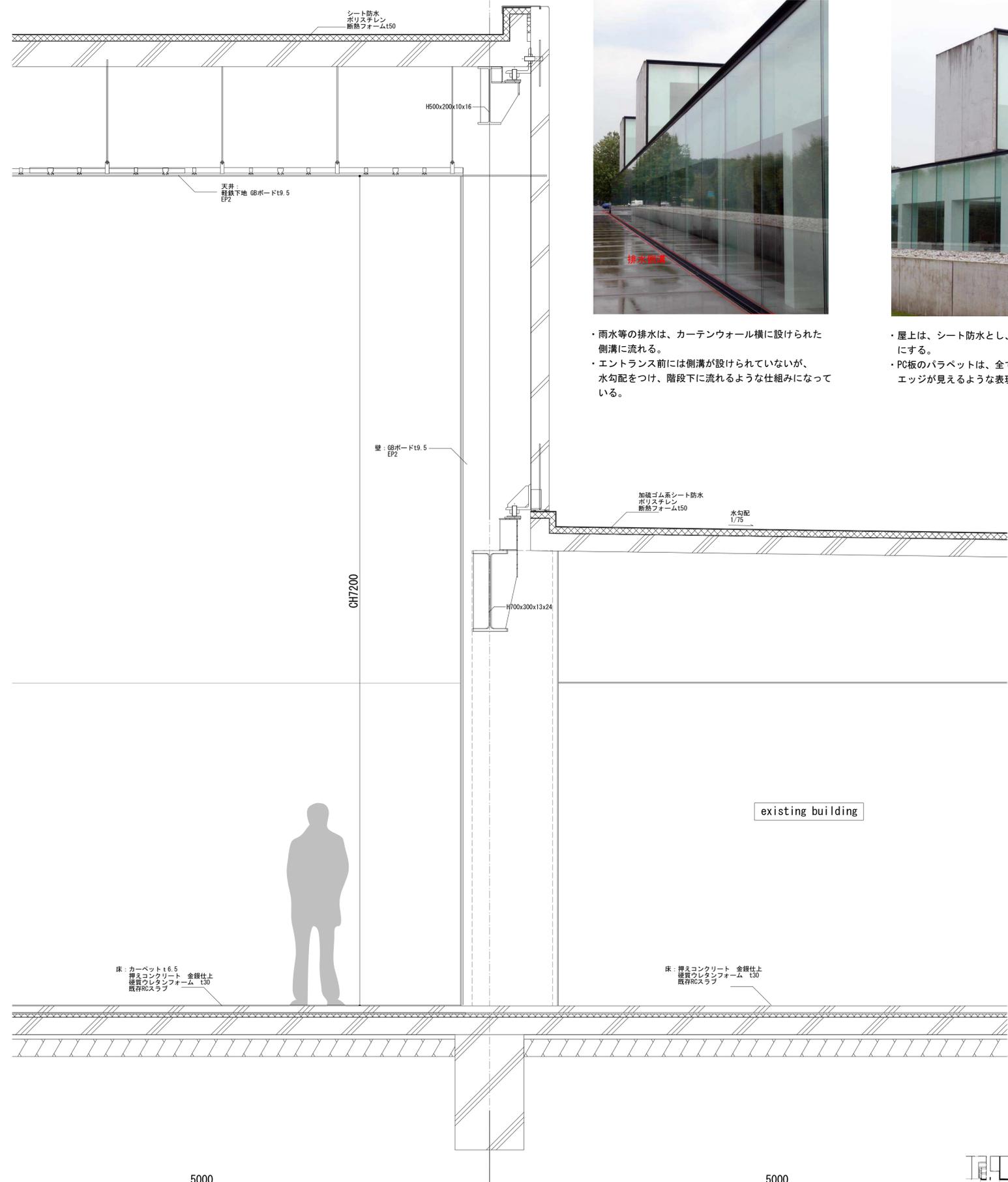
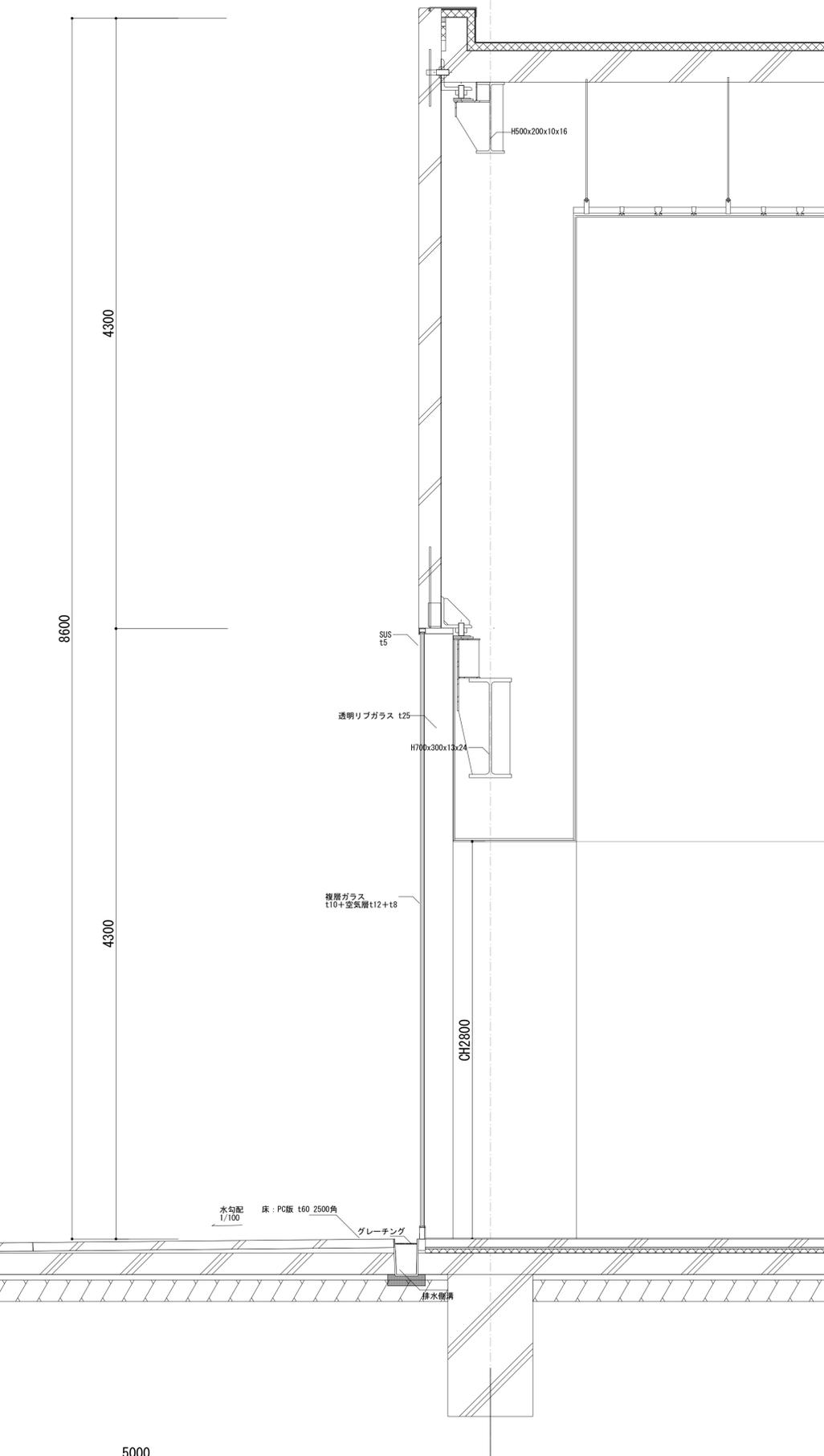
■排水計画

■防水の考え方

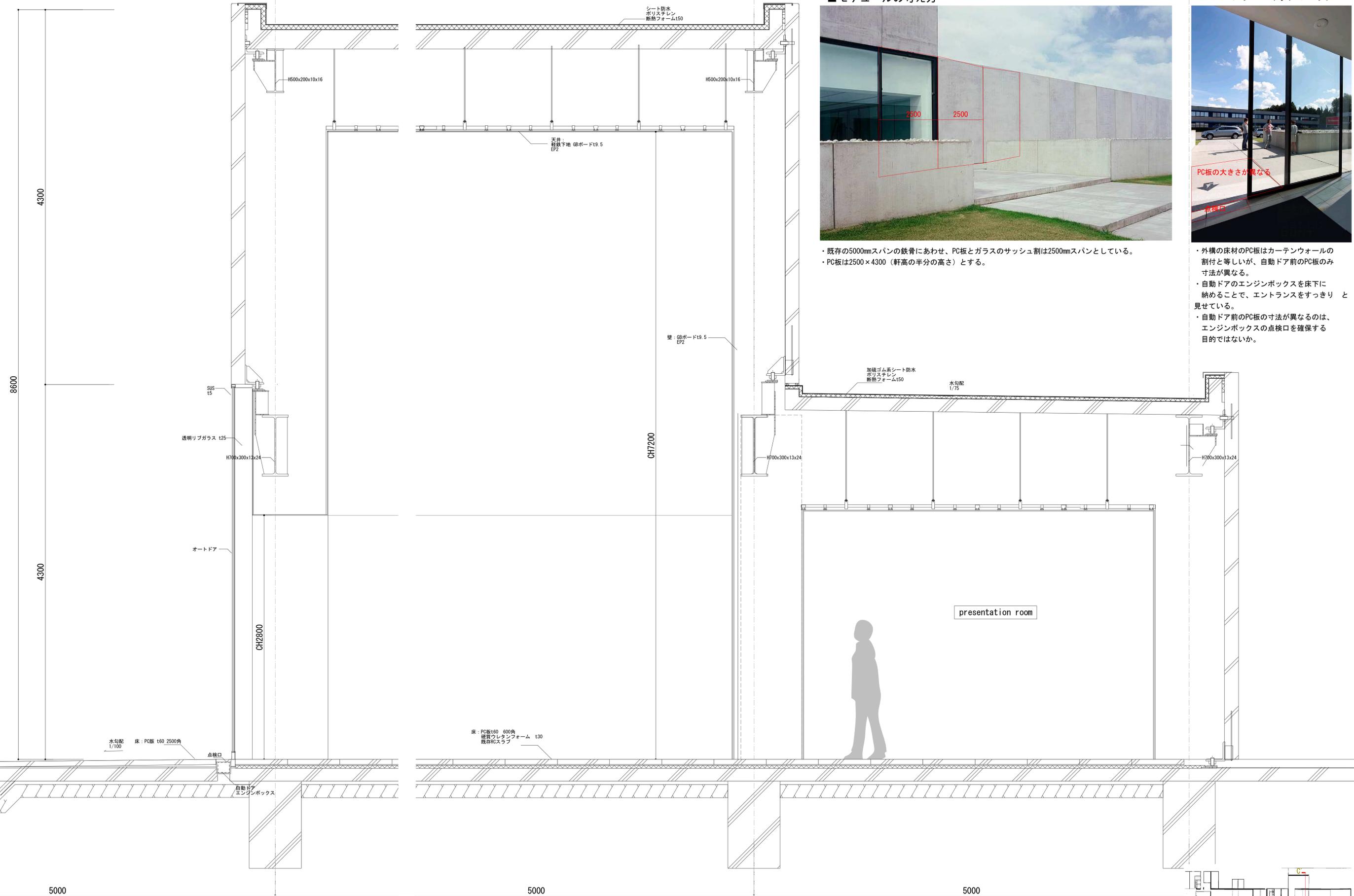


- ・雨水等の排水は、カーテンウォール横に設けられた側溝に流れる。
- ・エントランス前には側溝が設けられていないが、水勾配をつけ、階段下に流れるような仕組みになっている。

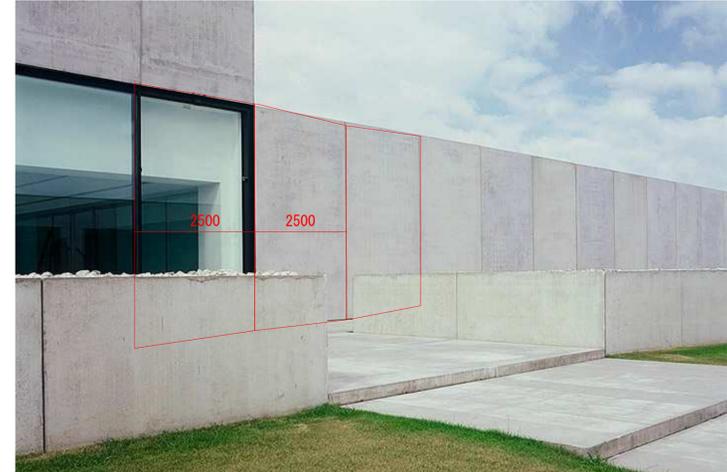
- ・屋上は、シート防水とし、立ち上がりの高さを最小限にする。
- ・PC板のパラペットは、全てを笠木で覆わず、PC板のエッジが見えるような表現とした。







■モジュールの考え方



- ・既存の5000mmスパンの鉄骨にあわせ、PC板とガラスのサッシュ割は2500mmスパンとしている。
- ・PC板は2500×4300（軒高の半分の高さ）とする。

■エントランス周りの工夫



- ・外構の床材のPC板はカーテンウォールの割付と等しいが、自動ドア前のPC板のみ寸法が異なる。
- ・自動ドアのエンジンボックスを床下に納めることで、エントランスをすっきりと見せている。
- ・自動ドア前のPC板の寸法が異なるのは、エンジンボックスの点検口を確保する目的ではないか。

